

年 組 名前

義政の権力示す巨石 「花の御所」跡で見つかる



「花の御所」とも呼ばれた室町殿跡地で見つかった庭園の池を構成していた石＝京都市上京区で

室町時代に足利將軍の邸宅で「花の御所」とも呼ばれた室町殿跡（京都市上京区）から庭園の池を構成していた八つの石が見つかり、京都市埋蔵文化財研究所が発表した。最大で長さ約二・七五メートルに及ぶ巨大な石で、造営したとみられる八代將軍足利義政の権力の大きさを示すという。室町殿は、三代將軍義満が造営したとされ、正門が室町通に面したことになんてい

る。これまでの調査で、室町殿の敷地南にある庭園の池の規模は、南北約四十五メートル、東西六十メートル以上だったことが分かっており、石が見つかったのはその東端。八つのうち七つは近接しており、石の組み方から滝口に当たると考えられる。庭園の主要部分だったとされるが、この付近の水深は比較的浅く、付近に導水施設が見つからないことから、枯れていた可能性がある。造成土から一五世紀中ごろの土器が見つかっており、義政の時代に造営されたと考えられる。一六世紀前半に池は埋められたとみられるが、石が他の場所で再利用されず、運び出されなかった理由は不明。調査はビルの新築工事に伴い実施。遺跡を保存するため、設計変更が行われる。

問1：室町幕府の名前の由来を説明しましょう。

問2：足利義満、義政が、それぞれ建てた代表的な建造物は何でしょうか。

義満（ ） 義政（ ）

問3：室町文化の中から、茶の湯のように現代に伝わるものをあげましょう。



問4：遺跡が保存されるために、ビルは設計変更が行われますが、このことについてあなたはどのように考えますか。

